# ＪＲ東海労ニュース

№１２５７
２００９年 4月20日
ＪＲ東海労働組合

# またも名松線家城駅で無人列車が走る！

19日22時13分頃、名松線家城駅構内に留置してあった列車（気動車１両）が逸走、３駅通過し、約8.5km走行し停止しました。この事故は、2006年８月20日にも発生しています。

当時の事故を受けて、名古屋地本は東海鉄事と業務委員会を開催しました。名古屋地本は、「手歯止め以外にもバックアップとして手ブレーキなどを設置せよ」「空気が漏洩しにくい車両構造に改造せよ」「車両が動き出さないように駅を改善せよ」などとハード対策を要請しました。しかし、会社は「一切そのような考えはない」とし、教育やマニュアルに重点を置くことを表明しました。唯一ハード対策として直通予備ブレーキが装備されましたが、今回の事故には通用しなかったのです。

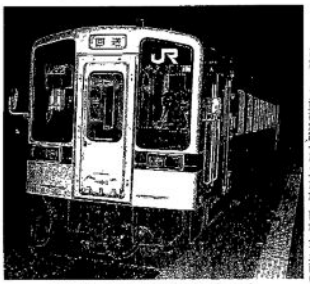
運転士がミスしても、直接事故に結びつかないシステムというのは、安全対策のイロハのイの字です。会社はこの事故を真摯に受け止め、運転士の責任追及のみにせず、抜本的な対策を実施すべきです。

**マニュアルだけの対策の結果がこれだ！**

2009年4月20日 読売新聞(夕刊)

## 無人列車 8.5キロ走る

三重・ＪＲ名松線



無人逸行した列車（20日午前3時3分、三重県のＪＲ名松線・家城駅で）＝日本鉄道労組提供

### 3駅・23踏切通過 けが人なし

19日午後10時13分頃、津市中山町のＪＲ名松線家城駅で、無人で留置されていた気動車1両（1両）の踏切が動き出し、約8.5キロ走行した。3駅を通過し、23カ所の踏切を通過しているのを見つけた。3駅の車止めを外して駅の留置線へ車両を移動させようとしていたという。ＪＲ東海が調べたところ、25分後、約8・5キロ離れた家市一志町井生で、田植えをしていた男性運転士（75）が、運転台と踏切23カ所を通過していた。ＪＲ東海が調べたところ、25分後、約8・5キロ離れた家市一志町井生で、田植えをしていた男性運転士（75）が、運転台と踏切23カ所を通過していた。3駅を通過し、23カ所の踏切を通過しているのを見つけ